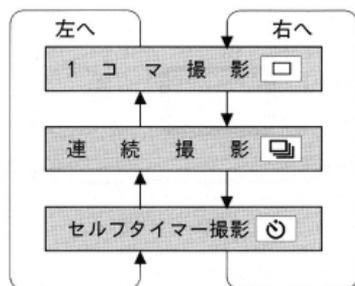


(6) 撮影方式を選びます

このカメラには、図のように3種類の撮影方式があります。

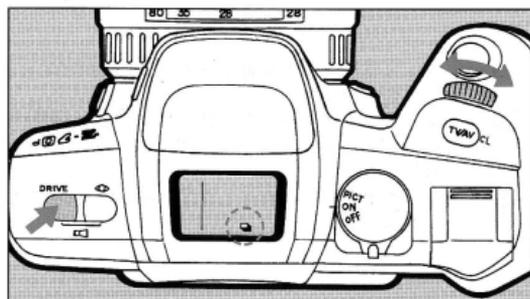
撮影方式の種類



-  : シャッターボタンを押し切ると、1回だけシャッターが切れます。
-  : シャッターボタンを押し切っている間、連続的にシャッターが切れます。68ページをご覧ください。
-  : セルフタイマー撮影をします。68ページをご覧ください。

応用的な使い方

67

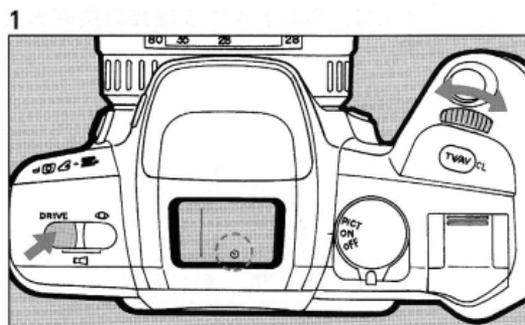


1) 連続撮影

シャッターボタンを押している間、連続的にシャッターが切れます。

ドライブボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、表示パネルに  を表示させます。

- * 連続撮影では、シャッターが1回切れる毎にその都度ピント合わせを行います。
- * 内蔵ストロボを使うときは、充電が完了してからシャッターが切れます。



2) セルフタイマー撮影の使い方

セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。シャッターボタンを押すと、約12秒後にシャッターが切れます。

1. ドライブボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、表示パネルに  を表示させます。

応用的な使い方

68

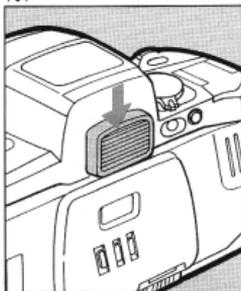
2



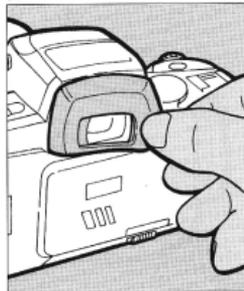
2. シャッターボタンを半押しして写したいものにピントを合わせたままシャッターボタンを押し切るとセルフタイマーが始動します。

- * 約12秒後にシャッターが切れます。
- * セルフタイマーの作動中は電子音で知らせ、シャッターが切れる約2秒前から、電子音も速い断続音「ピッピッピッ」になります。
- * セルフタイマーを始動後に中止したいときは、電源スイッチを「OFF」にしてください。

※



※



- ※ セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光により露出に影響を受ける場合がありますので、付属のファインダーキャップをご利用ください。
- ※ 「視度調整レンズM」や「ファインダーキャップ」などのアクセサリを使うときは、アイカップF₇を取り外して使います。アイカップF₇は、カメラのアクセサリ取り付け溝に取り付けられています。

- * アイカップと視度調整レンズを併せて使いたいときは、別売りの「アイカップMII」と「67用視度調整レンズ」を組み合わせてください。

69

(7) 電子音を消します

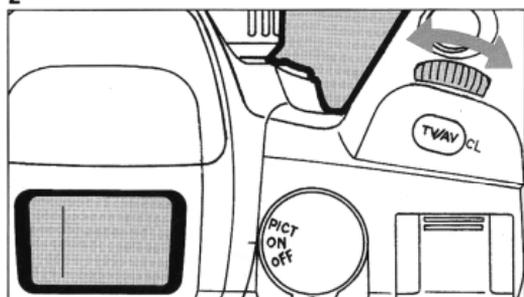
1



ピントが合ったときの電子音を消すことができます。

1. 赤目軽減ボタンとドライブボタンを同時に押して、表示パネルの表示を  表示のみにします。

2



2. 赤目軽減ボタンとドライブボタンを押したままセレクトダイヤルを回して、表示パネルの  表示を消します。

- * 電子音を鳴らすには、同様にセレクトダイヤルを回して表示パネルに  を表示させます。

70

(8) 内蔵ストロボについて、もっと知りたい方へ

ピクチャーモード[グリーンモードを含む]およびプログラム自動露出を使用した場合

- 周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが自動的に変化しますので、簡単にストロボ撮影ができます。シャッター速度は、1/100秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、オートフォーカス用でないレンズ[F・FA以外のレンズ]使用時および動体モードでは1/100秒固定になります。
- プログラム自動露出では、セレクトダイヤルを回すことによりプログラムシフトを行い、シャッター速度と絞りの組み合わせを変えることができます。シフト可能な範囲は、シャッター速度が1/100秒以下で絞りが連動する範囲内です。プログラムシフトについては、55ページをご覧ください。ただし、低速シャッターになることがありますので手ぶれにご注意ください。

絞り優先自動露出を使うとき

ピントの合う範囲[被写界深度]を変えて撮影したいときや遠くの物を写したいときなどに、絞りを自由に変えてストロボ撮影ができます。

絞り優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

シャッター速度は1/100秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、オートフォーカス用でないレンズ[F・FA以外のレンズ]使用時および動体モードでは1/100秒固定になります。

* マニュアル露出でも1/100秒以下のシャッター速度と絞りを自由に組み合わせてストロボ撮影ができます。

シャッター優先自動露出を使うとき

1/100秒以下のシャッター速度を自由に選んでストロボ撮影ができます。

シャッター優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

71

使用絞りから撮影距離を計算します

遠距離側の目安 $\text{ガイドナンバー} \div \text{使用絞り}$
近距離側の目安 $\text{遠距離側目安} \div 5$ [注]

ただし、0.7m以下の距離では使えません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出オーバーの原因となります。

注：割り算で使った数値の「5」は、このカメラの内蔵ストロボを単独で使った場合にのみ適用される数値です。

なお、ガイドナンバーは使用するフィルム感度[ISO]により下の表のようになります。

ISO25 → 6.5	ISO200 → 18
ISO50 → 9.2	ISO400 → 26
ISO100 → 13	

ここでISO100のフィルムを絞りF2.8で使うときの例をあげます。

$\text{ガイドナンバー}(13) \div \text{F}2.8 = 4.6\text{m}$

$4.6 \div 5 = 0.92\text{m}$

従って、約0.92mから4.6mの範囲でストロボが使えます。

撮影距離から使用絞りを計算します

$\text{ガイドナンバー} \div \text{撮影距離} = \text{使用絞り}$

計算で出た数字が「3」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方[2.8]にします。

72

F・FAレンズの内蔵ストロボ適合表 [○は使用可、×のレンズではケラレが発生します]

レ ン ズ 名	適 合
FA20mmF2.8	×
FA*24mmF2	×
F・FA28mmF2.8	○
F・FA50mmF1.4	○
F・FA50mmF1.7	○
FA*85mmF1.4	○
F・FA135mmF2.8	○
FA*200mmF2.8	○
FA*300mmF2.8	×
F・FA*300mmF4.5	×
F・FA*600mmF4	×
F・FA マクロ 50mmF2.8	○
F・FA マクロ 100mmF2.8	○
F・FA ソフト 85mmF2.8	○

レ ン ズ 名	適 合
Fズーム 17~28mmF3.5~4.5	×
Fズーム 24~50mmF4	△* ¹
FAズーム 28~70mmF4	○
FA*ズーム 28~70mmF2.8	×
FAズーム 28~80mmF3.5~4.7	△* ²
Fズーム 28~80mmF3.5~4.5	△* ³
FAズーム 28~105mmF4~5.6	△* ⁴
Fズーム 35~70mmF3.5~4.5	○
Fズーム 35~80mmF4~5.6	○
Fズーム 35~105mmF4~5.6	○
Fズーム 35~135mmF3.5~4.5	○
FAズーム 70~200mmF4~5.6	○
Fズーム 70~210mmF4~5.6	○
FA*ズーム 80~200mmF2.8	△* ⁵
Fズーム 80~200mmF4.7~5.6	○
F・FAズーム 100~300mmF4.5~5.6	○
F・FA*ズーム 250~600mmF5.6	×

- ※1: 焦点距離が28~50mmでは問題なく使用できます。(24~35mmでは警告が出ます。)
 ※2: 焦点距離が28~35mmの場合と、35mmで撮影距離が1.5m以下の場合ケラレが発生します。
 ※3: 焦点距離が28~35mmの場合と、35mmで撮影距離が1.2m以下の場合ケラレが発生します。
 ※4: 焦点距離が28~35mmの場合と、35mmで撮影距離が3m以下、40mmで撮影距離が1m以下の場合ケラレが発生します。焦点距離を50mmより望遠側にすれば問題なく使用できます。
 ※5: 焦点距離が80~135mmの場合ケラレが発生します。

73

応用的な使い方

日中シンクロについて

昼間の明るいときでも、帽子などで人物の顔が陰になってしまうような場合に、ストロボを利用すると陰の取れたきれいな写真が撮れます。

日中シンクロのやり方は、一般のストロボ撮影とまったく同じですから、そのままシャッターボタンを押すだけで簡単にできます。

* 背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。



ストロボなし



ストロボ使用

74

応用的な使い方



低速シンクロについて

夕景などを背景に人物撮影をするとき、低速シンクロを利用すると人物も背景もきれいに写せます。

マニュアル露出の場合

1. ストロボスイッチを押して、ストロボを上げます。
2. マニュアル露出にします。
3. 適正露出になるように適当なシャッター速度と絞りを選んでください。
4. 撮影します。

* 「1.」の操作は、どの時点で行なっても結構です。

シャッター優先自動露出の場合

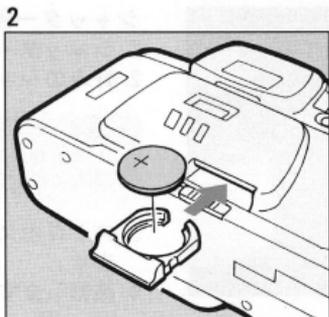
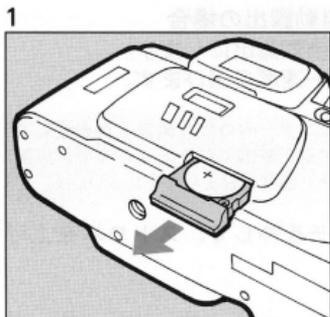
1. シャッター優先自動露出にします。
2. 好みのシャッター速度を選びます。

* 表示パネルとファインダー内の絞り値表示が点滅していると背景に対して適正露出になりませんので、点滅がなくなるシャッター速度を設定してください。

3. ストロボスイッチを押して、ストロボを上げます。
4. 撮影します。

* 低速シンクロの場合は、カメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。

(9) データバックの電池交換 [写真の日付や時刻が薄くなったとき]



電池の寿命は約3年です。写真に写る日付や時刻が薄くなってきたり、写らなくなった場合には電池を交換してください。

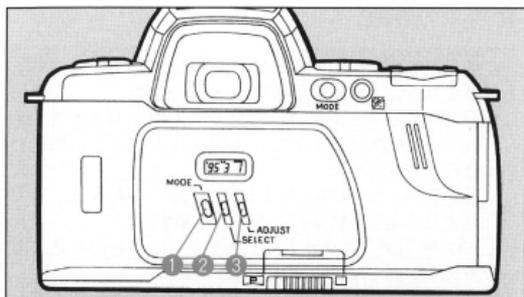
1. カメラの裏ぶたの電池ケースを矢印方向に引き抜き、電池を取り出します。
2. 新しい電池の+側を上にして電池ケースに入れ元の位置に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

3. 電池を入れると日付や時刻が表示されます。表示が出ないときは電池の+が正しく入っているかを確認してください。

* 電池交換後は、日付や時刻の修正を行ってから撮影してください。日付や時刻の修正については77ページをご覧ください。

* 電池は必ず、決められたリチウム電池 **CR2025** を1個使用します。

(10) 日付や時刻の修正



- ① = MODE ボタン
- ② = SELECT ボタン
- ③ = ADJUST ボタン

日付や時刻の修正方法

「年月日」の修正

1. ②の SELECT ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。
2. ③の ADJUST ボタンを押して、点滅している数字の修正を行ないます。
3. 修正後は、②の SELECT ボタンを押して、点滅を止めます。

- * 点滅の順番は、年→月→日→年です。
- * ADJUST ボタンは、一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2~3秒後からは早送りされます。
- * 修正を行うときは、コインなどを利用してください。

「日時：分」の修正

1. ②の SELECT ボタンを押し、時・分・「:」表示のうち修正したい数字[秒の場合は:]を点滅させます。
2. ③の ADJUST ボタンを押して、点滅している数字の修正を行ないます。
3. 0秒にセットするには、「:」点滅のときに③の ADJUST ボタンを押してください。
4. 修正後は、②の SELECT ボタンを押して、点滅を止めます。

- * 点滅の順番は、時→分→:→時です。
- * ADJUST ボタンは、一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2~3秒後からは早送りされます。
- * 修正を行うときは、コインなどを利用してください。

使用上の注意

- * 使用可能温度は約50℃~0℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなる場合があります。
- * 使用できるフィルムは、感度がISO25~1600までのものです。感度はカメラにフィルムを入れると自動的に合わせられます。
- * 高感度フィルム[ISO 1000以上]を使ったときは、写し込まれる文字がにじむことがあります。
- * ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなる場合があります。
- * 修正途中[点滅表示中]は、シャッターを切っても日付や時刻は写し込まれません。